

令和3年度(2021)アサンプション国際小学校 学校評価報告書

1. めざす学校像

教育目標:「心身ともに、すこやかで愛に生きる子

～進んで学ぶ子、強く生きる子、神と人を愛する子～

1. 進んで学ぶ子

- (1) 基礎的基本的学力を身につける
- (2) 自分で考え判断する
- (3) 自分の考えを表現し、分かち合う

2. 強く生きる子

- (1) 基本的生活習慣を身につける
- (2) 強い心と体をつくる
- (3) 責任を持ち、自主的に行動する

3. 神と人を愛する子

- (1) 自分の良さや人の良さを認める
- (2) 思いやりを持ち、友だちを大切にする
- (3) 感謝の気持ちをもって喜んで働く
- (4) 自然を大切にする

2. 2021事業計画

【理念】

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す

～2022年度に全学年が新体制になるため、「アサンプション21世紀型教育」の充実と定着を進める

1. 重点課題

- (1) 授業力向上…教職員の意識改革、組織力強化と授業力の向上の育成
- (2) 英語力強化…イマージョン教育の定着と組織化
- (3) 学院的課題…募集80名を目標とした広報戦略の強化
- (4) 幼・中高教職員間…内部進学制度の充実と教員の相互補完
- (5) 宗教教育再生・強化…カトリック校に相応しい全校的体制刷新

2. 具体的な取り組み

- (1) 授業力の向上
 - ① 研究研修体制を充実させる。研究授業の録画視聴や ZOOM を使用した研修など、コロナ禍における新しい形の研修を実施する。
 - ② PBL の理解を深め、共通した研究テーマで各教員が実践した取り組みを共有する。
 - ③ 個人用 iPad を活用し、ICT 活用した授業を日常的に進める。
- (2) 英語力(イマージョン)強化
 - ① 英語モジュールタイムにより、英語に触れる時間を増やすとともに、授業で取り組んだ内容を定着させる。
 - ② PBL の授業を主体とするイマージョン授業を実施し、教員同士の実践報告を通して授業スキルを高める。
 - ③ 中高のイマージョン部会と連携し、12 年一貫プログラムを構築する。
- (3) 学院的課題 募集について
 - ① 入学者確保に向けて、幼児教室や幼稚園での説明会の実施や住所保有者に対しての定期的な情報発信を行う。
 - ② 内部生の満足度を向上させるために、教員の研修体制、ブログなどによる情報発信、児童交流や保護者説明会等を実施する。
- (4) 幼・中高教職員との連携強化
 - ① 幼稚園の園長推薦制のさらなる確立と内部保護者対象の説明会を実施し、内部進学希望者の増加に努める。
 - ② 小学校の校長推薦制度の改革と中学校授業への体験を実施し、内部進学希望者の増加に努める。
- (5) 宗教教育再生・強化
 - ① 宗教教育を充実させる。
 - ② 教員に対する宗教研修を実施する。

3.【自己評価アンケートの結果と分析】(2022年1月実施)

保護者アンケート

<集計結果>

①学院の5つのCore Values「Life, Truth, Freedom, Goodness, Oneness」を意識し、「世界の平和に貢献する人材」を育てる教育が行われていましたか。

肯定65% 否定8% どちらでもない27%

②学院のモットー「誠実・隣人愛・喜び」を礎に、宗教教育を中心とした児童の心を育てる教育が行われていましたか。

肯定73% 否定7% どちらでもない20%

③ユネスコスクールとしての活動が、学校内全体に浸透させることができていましたか。

肯定54% 否定9% どちらでもない37%

④児童が主体的に取り組む奉仕活動において、経験したことを深い学びにつなげるような取り組みができていましたか。

肯定60% 否定8% どちらでもない32%

⑤児童の基礎的な学力が定着できるように、日々の教育活動が進められていましたか。

肯定69% 否定10% どちらでもない21%

⑥児童が個人のiPadを用意することで、教育的効果を上げるような授業が行われていましたか。

肯定60% 否定15% どちらでもない25%

⑦情報科以外の授業で、プログラミングの思考を身に付ける授業が行われていましたか。

肯定45% 否定15% どちらでもない40%

⑧日々の授業の中で、児童が主体的に活動できる時間を十分確保されていましたか。

肯定63% 否定7% どちらでもない30%

⑨本校の英語教育は、4技能(話す・聞く・読む・書く)をバランスよく向上させる内容で進められていましたか。

肯定56% 否定13% どちらでもない31%

⑩モジュールタイムの導入により、英語に触れる機会が増え、定着につながっていましたか。

肯定50% 否定14% どちらでもない36%

⑪本校の英語教育は、中高も含めた12年一貫教育として、つながりを感じられるような取り組みができていましたか。

肯定34% 否定26% どちらでもない40%

⑫子どもたちの声に耳を傾けながら学級経営や教育活動が行われていましたか。

肯定61% 否定12% どちらでもない27%

⑬挨拶や言葉遣いなど、様々な人とのつながりを意識した指導を、積極的に行われていましたか。

肯定67% 否定10% どちらでもない23%

⑭学校行事や奉仕活動において、実施のねらいや目的を、学年に応じて児童に伝えることができていましたか。

肯定64% 否定9% どちらでもない27%

⑮コロナ禍において、制限された活動の中でも、児童・保護者が感動できるような行事が実施できていましたか。

肯定46% 否定27% どちらでもない27%

⑯小学校だよりを通して、学校の情報を発信できていると思われませんか。

肯定67% 否定10% どちらでもない23%

⑰学年通信・学級通信を通して、学年や学級の情報を発信できていると思われませんか。

肯定68% 否定9% どちらでもない23%

⑱アフタースクールやメアリーズクラスは、安心して預けられる環境で実施されていましたか。

肯定67% 否定9% どちらでもない24%

⑲保護者が併設中学校・高等学校に興味を持てるような情報の発信を行うことができていましたか。

肯定24% 否定37% どちらでもない39%

⑳学校は、学習ポータルサイトやブログを、情報発信の場として効果的に活用できていましたか。

肯定57% 否定15% どちらでもない28%

㉑HPに掲載されているブログを、どれぐらいの頻度でご覧になられましたか。

ほぼ毎日 5% 週に 1~2 回程度 12% 月に 1~2 回程度 41% ほとんど見なかった 40% その他 2%

A-1 本校のアカデミックコースについて、イングリッシュコースとは違う魅力として感じられたものをお選びください。(複数選択可)

正しい日本語の定着 50% 英語の習熟度別授業 26% 主体的な活動 19% 落ち着いた雰囲気 57% 規範意識 20%

集団としてのまとまり 41% 特になし 10%

E-1 本校のイメージ教育は、児童の英語運用能力を向上させるのに十分効果があると感じられますか。

肯定 68% 否定 12% どちらでもない 20%

E-2 イメージ教育を実施する上で、教員の TT による授業は効果的に実施できていましたか。 *TT=チームティーチング(複数の教員がチームで指導をすること)

肯定 66% 否定 4% どちらでもない 30%

<個別の意見>

- ・先生が一人ひとりに対して行う熱心な指導について満足している。
- ・コロナ対応で納得はしているが、学校で子どもの様子を見る機会が少なかったのが残念だった。
- ・学力向上へ注力していただきたい。(算数や英語のつまずきに対してのフォロー)
- ・中高内部進学に向けた説明会が少なく、情報が得られない。

教員アンケート

<集計結果>

①学院の 5 つの Core Values 「Life, Truth, Freedom, Goodness, Oneness」を意識し、「世界に貢献できる人材」を育成する教育が実践できていましたか。

肯定 45% 否定 7% どちらでもない 48%

②学院のモットー「誠実・隣人愛・喜び」を礎に、宗教教育を中心とした児童の心を育てる教育が実践できていましたか。

肯定 63% 否定 4% どちらでもない 33%

③ユネスコスクールとしての活動が、学校内全体に浸透させることができていましたか。

肯定 30% 否定 26% どちらでもない 44%

④児童が主体的に取り組む 奉仕活動において、フィードバックを行い、経験を深い学びにつなげるような取り組みができていましたか。

肯定 41% 否定 22% どちらでもない 37%

⑤児童の基礎的な学力の定着を意識して、日々の教育活動を進めることができていましたか。

肯定 74% 否定 7% どちらでもない 19%

⑥本校のアカデミックコースは、イングリッシュコースと差別化できるような魅力を打ち出すことができていますか。

肯定 22% 否定 30% どちらでもない 48%

⑦児童が個人の iPad を用意することで、教育的効果を上げるような授業ができましたか。

肯定 67% 否定 11% どちらでもない 22%

⑧情報科以外の授業で、プログラミングの思考を意識した授業が実施できていましたか。

肯定 44% 否定 19% どちらでもない 37%

⑨PBL を実施する上で、児童の思考の可視化を意識して指導ができていましたか。

肯定 48% 否定 7% どちらでもない 45%

⑩日々の授業の中で、児童が主体的に活動できる時間を全体の 20%以上確保できていましたか。

肯定 78% 否定 0% どちらでもない 22%

⑪本校の英語教育は、4 技能をバランスよく向上させる内容で進められていましたか。

肯定 48% 否定 0% どちらでもない 52%

⑫モジュールタイムの導入により、英語に触れる機会が増え、定着につなげることができましたか。

肯定 30% 否定 22% どちらでもない 48%

⑬本校の英語教育において、中高と連携して 12 年一貫教育のつながりをもった指導ができていましたか。

肯定 4% 否定 52% どちらでもない 44%

⑭本校のイメージ教育は、児童の英語運用能力を向上させるのに十分効果がある内容で進められていましたか。

肯定 59% 否定 4% どちらでもない 37%

⑮イメージ教育を実施する上で、教員の TT による授業は効果的に実施できていましたか。

肯定 41% 否定 4% どちらでもない 55%

⑩挨拶や言葉遣いなど、様々な人とのつながりを意識した指導を、積極的に行うことができていましたか。

肯定 74% 否定 7% どちらでもない 19%

⑪学校行事や奉仕活動において、実施のねらいや目的を、学年に応じて児童に伝えることができていましたか。

肯定 56% 否定 4% どちらでもない 40%

⑫コロナ禍において、制限された活動の中でも、児童・保護者が感動できるような行事になるように指導できていましたか。

肯定 26% 否定 26% どちらでもない 48%

⑬本校の児童が併設中学校へ内部進学したいと感じられるような取り組みを、十分行っていましたか。

肯定 7% 否定 63% どちらでもない 30%

⑭保護者が併設中学校・高等学校に興味を持てるような発信を行うことができていましたか。

肯定 4% 否定 70% どちらでもない 26%

⑮学習ポータルサイトやブログを使って、内部満足度を上げることへつなげられていましたか。

肯定 19% 否定 22% どちらでもない 59%

⑯PBLの理解や教員の資質向上につながるような研修は、十分実施されていましたか。

肯定 44% 否定 15% どちらでもない 41%

⑰日々の授業の向上に向けて、学年団や部会等、チームで具体的な検証が実施できていましたか。

肯定 63% 否定 11% どちらでもない 26%

⑱【参加された方のみ】初任者研修は、充実した内容で実施されていましたか。

肯定 65% 否定 0% どちらでもない 35%

⑲初任者が安心して活動できるように、学年が中心となってチームで取り組むことができましたか。

肯定 60% 否定 7% どちらでもない 33%

<個別の意見>

- ・情報共有が十分にできておらず、業務がスムーズに進められないことが見られた。
- ・アカデミックコースの特色を明確に打ち出していく必要がある。
- ・内部進学に向けての情報がありなく、十分な進路指導ができていない。

分析

保護者アンケートの結果から、コロナ禍におけるオンライン授業など充実した対応については高評価をいただいた。また、教員の熱心な指導についても満足していただいている方が多い。一方で、自分の子に対する個別の要望が多岐にわたり、対応しきれていないところが不満点として挙がってきているように感じる。

教員アンケートの結果からは、教員間の情報共有が不足しているために、業務に支障が出ていることが意見として見られた。また、全体的に「どちらでもない」の割合が高いが目立った。日々の業務の負担が大きく、他の教室や学年の取り組みにまで目がいかないため、「自分はしているが他の先生のことは分からない」といった、学校全体として取り組んでいるのか把握できていない現状が浮き彫りになっている。また、アカデミックコースの特色を出すような取り組みも、早急に検討していかなければいけない。

最後に、保護者・教員共に、中高の情報不足が意見として挙がってきている。説明会を実施したり、行事に参加したりなど、目に見える形で早急に取り組んでいく必要がある。

4. 本年度の取組内容及び自己評価

今年度の重点目標 (Plan)	具体的な取組計画・内容 (Do)	評価指標 (Check)	自己評価 (Action)
(1) 授業力向上	① 研究研修体制を充実させる。研究授業の録画視聴や ZOOM を使用した研修など、コロナ禍における新しい形の研修を実施する。	学期に一回、国・算の授業研究会を実施する。また、公開授業も随時行い、教員の授業力向上に向けた研修を進める。 (判定: ○、△、×)	【結果】○ コロナ対応で従来のような研究授業を実施するのは難しかったが、録画配信を活用するなど新しい形の研修を実施することができた。
	② PBL の理解を深め、共通した研究テーマで各教員が実践した取り組みを共有する。	PBL の共通理解を深める研修を実施する。 (判定: ○、△、×)	【結果】△ 長期休暇の時に全教員対象の PBL 研修を行うことができた。更に回数を増やすための具体案を検討する必要がある。
	③ 個人用 iPad を活用し、ICT 活用した授業を日常的に進める。	情報担当の教員を中心に、ICT を活用しやすい環境を整えたり、実践を共有できるような研修を計画したりする。 (判定: ○、△、×)	【結果】○ どの学年も、iPad を活用した授業は行われるようになった。更に活用の幅を広げられるような実践報告会を計画していく。
(2) 英語力強化	① 英語モジュールタイムにより、英語に触れる時間を増やすとともに、授業で取り組んだ内容を定着させる。	週当たり 45 分間の英語モジュールタイムを確保し、児童の英語力向上に関する検証を行う。 (判定: ○、△、×)	【結果】△ 英語モジュールタイムの時間は確保できたものの、内容については精査が必要。また、英語力向上に関する検証も具体的に進めていく必要がある。
	② PBL の授業を主体とするイマージョン授業を実施し、教員同士の実践報告を通して授業スキルを高める。	イマージョン授業の授業研を年間で複数回行い、授業の検証を進める。 (判定: ○、△、×)	【結果】○ 学期に 1 回程度の頻度で、イマージョン授業の授業研を行えた。PBL に対する理解も深められた。
	③ 中高のイマージョン部会と連携し、12 年一貫プログラムを構築する。	イングリッシュコースの達成目標を明確にし、12 年一貫体制の展望を持った内容の検証を行う。 (判定: ○、△、×)	【結果】○ 12 年間プログラムは確立できた。来年度からその検証が始まるので、更に内容を充実させていかなければいけない。
(3) 広報戦略の強化	① 募集 80 名を目標とした広報戦略を強化する。	入学者確保に向けて、幼児教室や幼稚園での説明会の実施や住所保有者に対しての定期的な情報発信を行う。 (判定: ○、△、×)	【結果】△ 出願までの流れは、非常に順調に進んでいた。入試前後に辞退者が続出し、入学者は目標に達しなかった。辞退者続出の原因の検証が必要。
	② 教育活動における様々な場面の発信を行い、内部生の満足度を向上させる。	教員の研修体制、ブログなどによる情報発信、児童交流や保護者説明会等を通して、本校の教育内容の充実度を伝え、満足度向上につなげる。 (判定: ○、△、×)	【結果】× コロナ対応でイレギュラーな取り組みが増えたこともあり、発信にまで十分に手が回らなかった。結果、満足度向上につなげることができなかった。
(4) 内部進学制度の充実と教員の相互補完	① 小学校への内部進学希望者を前年度以上に増加させる。	幼稚園の園長推薦制のさらなる確立や内部保護者対象の説明会を実施し、小学校に関心を向けることで内部進学希望者の増加につなげる。 (判定: ○、△、×)	【結果】○ 22 名という非常に多い内部進学者を確保することができた。
	② 併設中学校への内部進学希望者を増加させる。	小学校の校長推薦制度の改革と中学校授業への体験を実施し、併設中学校に関心を向けることで内部進学希望者の増加につなげる。 (判定: ○、△、×)	【結果】× 例年よりも少ない数の内部進学者となった。最後の女子の学年ということもあるが、もっと中学校に関する説明会や体験会を下の学年の時から実施する必要がある。
(5) 宗教教育再生・強化	① 宗教教育を充実させる。	全校礼拝、各種宗教行事等において、神さまとの対話を通して心身共に健やかに成長させる。 (判定: ○、△、×)	【結果】△ 学校全体で聖堂に集まって宗教行事を行えないこともあり、意識を高めていくことが難しかった。
	② 教員に対する宗教研修を実施する。	シスターや外部講師を招いての宗教研修を行い、カトリック校の教員としての理解を深める。 (判定: ○、△、×)	【結果】× 長期休暇に実施を予定していたが、コロナの感染拡大もあり、講師を招くなどの全体研修を行うことができなかった。

5. 学校関係者評価

日頃の教育活動において、子供たちの良いところを発見し、成長につなげていく丁寧な取り組みを進めていただいていると感じます。今後も、本校のよき伝統でもあるそうした真摯な活動を続けていただきたいと思います。

また、コロナ禍が続くなか、学校運営もイレギュラーな対応を余儀なくされていますが、状況に応じて適切な工夫をしていただいていると思います。コロナ禍への政府と国民（＝保護者）の受けとめ方も、時間とともにかなり変化してきていますので、今後もその変化に遅れず、臨機応変な対応をお願いいたします。

アンケート結果について、保護者・教職員ともに同じ傾向にある「英語教育」の設問（中高も含めた12年一貫教育）が象徴的ですが、せっかく幼小中高が一体運営であるにもかかわらず、どこまで一貫教育のメリットを活かしているのか、改善の余地があるように感じました。日々の教育活動のなかで、より併設中学校・高等学校の存在を感じられるような取り組みや、中高とのカリキュラムの相互接続などの取り組みが進めば、中高の情報不足についても自ずと改善されるものと思います。